

決算

平成28年度の一般会計歳入総額は約734.7億円、歳出総額は約706.9億円で、歳入から歳出を差し引いた額は約27.8億円です。そのうち翌年度に使い道が決まっているお金約1.3億円を差し引いた約26.5億円が黒字額となりました。

【財政課財政担当】

※平成28年度決算の詳細は、11月1日(水)から市団や市役所本庁舎市政情報コーナーでご覧いただけます



本号で掲載する数値は、茅ヶ崎市長監査委員による審査を受けています。

審査に付された各会計歳入歳出決算書等は、法令に規定された様式に従って作成されており、その計数は歳入簿、歳出簿その他の関係諸帳簿と符合し、正確なものと認めます(「平成28年度茅ヶ崎市長決算審査意見書」茅ヶ崎市長監査委員)。

一般会計の決算

歳入

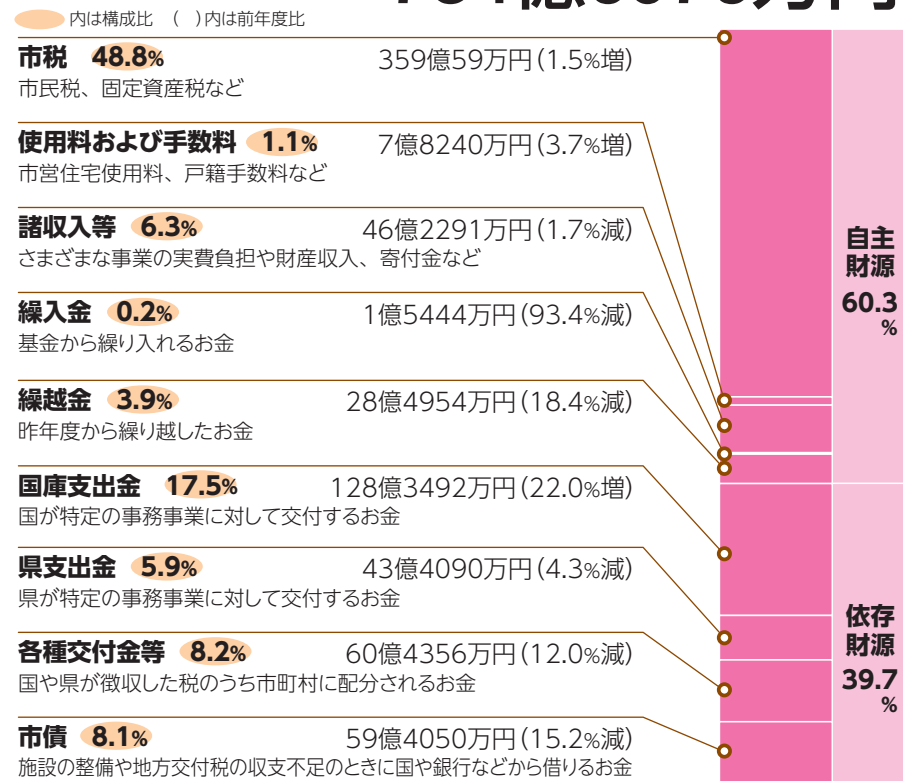
市税が約5億円の増、国庫支出金が約23億円の増となったものの、繰入金の約22億円の減、市債の約11億円の減、各種交付金等の約8億円の減などにより、歳入総額として、前年度に比べ約21億円の減額となりました。

歳出

民生費の約21億円の増、衛生費の約16億円の増、土木費の約3億円の増となったものの、総務費の約61億円の減などにより、歳出総額として、前年度に比べ約20億円の減額となりました。

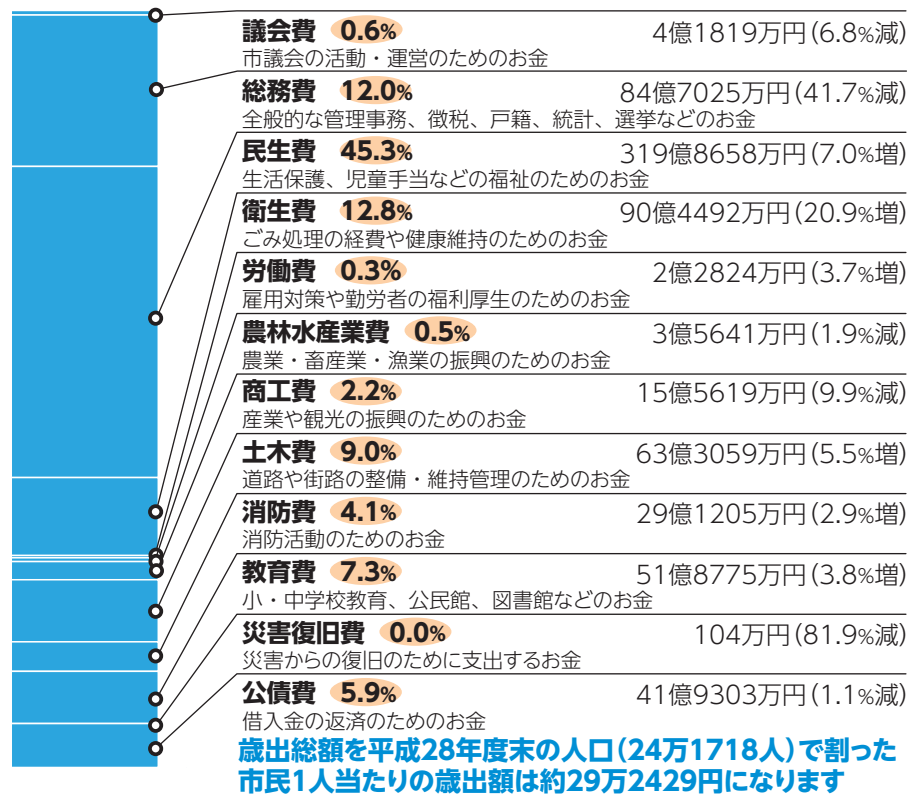
一般会計歳入 (前年度比2.8%減)

734億6976万円

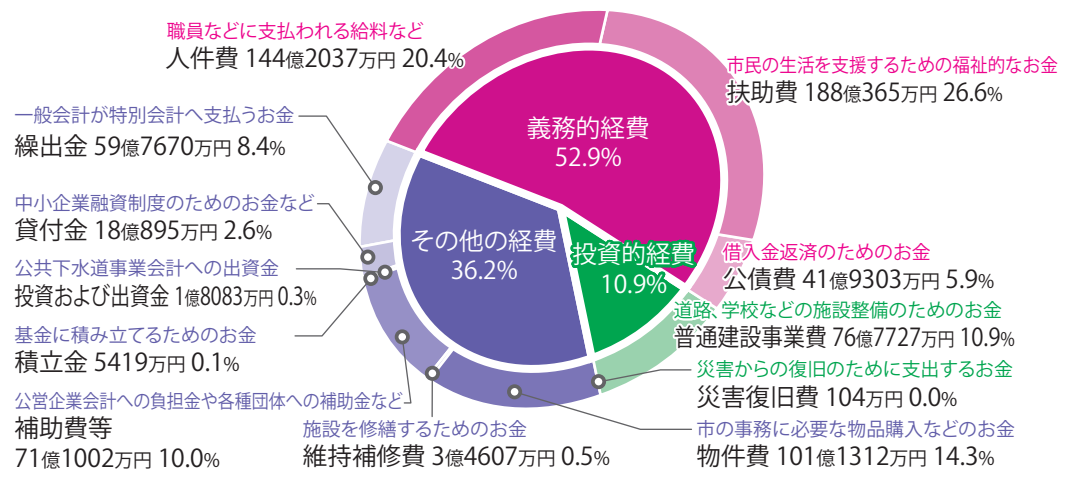


一般会計歳出 (前年度比2.8%減)

706億8524万円



歳出の性質別グラフ



特別会計の決算

特別会計は、特定の事業を行うため条例に基づき設置され、一般会計とは区別して経理しています。

会計名	決算額		収支差引額	翌年度繰越財源	実質収支額
	収入	支出			
国民健康保険事業	270億2338万円	263億6110万円	6億6228万円	0万円	6億6228万円
後期高齢者医療事業	30億6918万円	30億6164万円	754万円	0万円	754万円
介護保険事業	139億6215万円	135億2754万円	4億3461万円	83万円	4億3378万円
公共用地先行取得事業	3億2450万円	3億2440万円	10万円	10万円	0万円
公営企業会計	公共下水道事業	収益 53億7692万円	50億3303万円	—	—
		資本 28億4254万円	46億5360万円	—	—
	病院事業	収益 102億5175万円	113億174万円	—	—
		資本 4億3726万円	11億8235万円	—	—

平成28年度決算の健全化判断比率等

平成28年度決算に基づいて算定した本市の健全化判断比率と資金不足比率は、いずれも国の定めた基準を下回る「健全段階」でした。「健全化判断比率等」とは、地方公共団体の決算に基づいて出される、財政の健康状態を示す指標です。平成19年6月に公布された「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により、自治体は財政の健全度を判断するための財政指標を毎年度公表することになっています。

	説明	本市比率	健全段階	早期健全化基準 ※1	財政再生基準 ※2
実質赤字比率	財政規模に対する一般会計等の赤字の割合	黒字	茅	11.44%	20%
連結実質赤字比率	財政規模に対する全会計の赤字の割合	黒字	茅	16.44%	30%
実質公債費比率	財政規模に対する借入金返済額等の割合	0.4%	茅	25%	35%
将来負担比率	財政規模に対する将来支払わなければならない負債等の割合	44.5%	茅	350%	-
資金不足比率	公共下水道事業、病院事業の事業規模に対する資金不足の割合	不足なし	茅	20%	-
			茅	経営健全化基準	-

※1 早期健全化基準：自治体の自主的な改善努力を図るための「財政健全化計画」の策定が必要となる基準

※2 財政再生基準：国の関与による確実な再生を図るための「財政再生計画」の策定が必要となる基準

冬の間、日本で暮らした野鳥たちは、梅が咲き始めた頃にふと帰ってきます。ツバメなど、春から夏に南から渡ってくる野鳥は夏鳥と呼ばれています。ツバメは気候の良い日本で繁殖、子育てをして、秋には南に帰ってきます。また、ハクセキレイ、ムクドリやヒヨドリなど、一年中



タゲリ(冬鳥)

◎渡ってくる時期と生態
湘南地域には、多くの種類の野鳥が渡ってきます。シベリアなどの北方から渡ってくる野鳥は冬鳥と呼ばれ、ふるさとの冬の厳しい寒さから逃れて暖かい日本に渡ってきます。その中に、タゲリがいます。田んぼや湿地などで生活し、稲刈り後のヒコバエ(稲を刈ったあとに出る新芽)につく昆虫や、小魚、ドジョウなどを食べます。

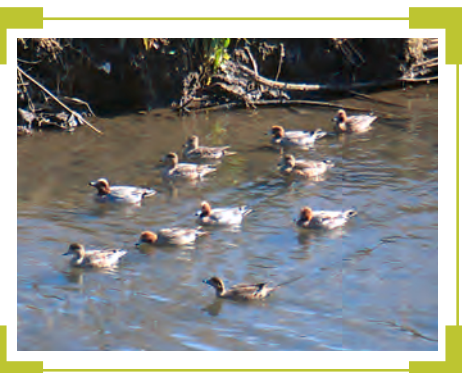


ヒヨドリの渡り(留鳥)

茅ヶ崎の身近な自然

日本に渡ってくる野鳥

写真・文／文化資料館自然資料整理グループ



ヒドリガモの群れ(冬鳥)

◎渡り方とその理由
野鳥は、夜行性のゴイサギ、ヨタカ、フクロウなどを除いては、夜はあまり活動しません。大型の渡り鳥は昼間に渡りますが、小型の渡り鳥の多くは外敵を避けるため夜に渡ります。渡る前には、たくさん食べて脂肪を蓄え、長距離移動のエネルギーにします。渡り鳥は太陽の動きや星の位置、地磁気、地形などを元に、正しい方向を知ることができるといわれており、季節に合わせて遠くへ渡り、同じところに戻ります。

◎渡り方とその理由
野鳥は、夜行性のゴイサギ、ヨタカ、フクロウなどを除いては、夜はあまり活動しません。大型の渡り鳥は昼間に渡りますが、小型の渡り鳥の多くは外敵を避けるため夜に渡ります。渡る前には、たくさん食べて脂肪を蓄え、長距離移動のエネルギーにします。渡り鳥は太陽の動きや星の位置、地磁気、地形などを元に、正しい方向を知ることができるといわれており、季節に合わせて遠くへ渡り、同じところに戻ります。